



てるちゃんの あしもみのひみつ

1 ページ

あるところに、「てるちゃん」という
にこにこえがおの おねえさんがいました。

てるちゃんは にほんじゅうをめぐりながら、
「あしもみせいたい」をしています。

2 ページ

「いたいの いたいの、とんでけ～♪」

てるちゃんは あかちゃんから おじいちゃん、おばあちゃんまで、
みんなを にこにこにする あしもみの たつじんです。

3 ページ

きょうも、ひまわりの さく まちに やってきました。

まっていたのは、げんきのない はるくんです。

4 ページ

「はるくん、こんにちは。あしのうら、ちょっと さわらせてね」

てるちゃんは やさしく はるくんの あしを もみもみ。

5 ページ

「あれ? はるくん、すこし おなか つかれてるかな?」

「なんで わかるの??」

「ふふふ、あしうらには からだやこころの ことが ゼ～ンぶ うつってるんだよ」

6 ページ

「このへんは おなか」

「ここは め」

「そして ここは……こころの つかれが わかるところだよ」

てるちゃんの ゆびは、まるで おひさまみたいに あたたかい。

7 ページ

「いたっ……でも きもちいい……」

はるくんは ふしぎな きもちになりました。

いたいのに こころが ぽかぽか してくるんです。

8 ページ

もみおわると、

「わ～！からだが　かるくなつた！」

「おなかも　すいたし、なんだか　わらいたくなつてきた～！」

はるくんは　おおきく　のびをしました。

9 ページ

それをみていた　まちのみんなが　てるちゃんのところに　あつまりました。

「つぎは　わたし！」

「ぼくも～！」

「ひざが　いたいんだけど、なおるかしら？」

10 ページ

てるちゃんは　にっこり　ほほえんで　いいます。

「たいようの　ひかりみたいに、

あしもみで　こころとからだを　あかるくできたら　うれしいな」

11 ページ

ひまわりのように　みんなの　えがおが　ひらきました。

てるちゃんの　あしもみは、まちに　げんきの　おひさまを　とどけていきます。

12 ページ

「からだのなやみも、こころのもやもやも、あしうらに　ヒントがあるんだよ」

つぎは　どこの　まちへ　いこうかな？

てるちゃんの　あしあとが、そっと　つづいていきます。